

2019年2月28日(木)

関東教区諸教会・伝道所・関係学校・団体の皆様へ

2019年3月11日を迎えるにあたって

希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう。

ローマの信徒への手紙 15章 13節

主のみ名を賛美いたします。

私たちは、来る3月11日(月)に「東日本大震災」発生から8年を迎えようとしています。しかし、8年を経ても、被災地では津波の被害によって失われた尊いのちへの悲しみと喪失の思いは消えることはありません。

また、東京電力福島第一原子力発電所の事故は、原子力に頼る私たちの社会のあり方に、大きな問題があることを教えました。原発周辺の方々は避難を余儀なくされ、今もなお不安の中におかれています。

私たちは、今もなお痛みと悲しみ、大きな不安の中にある方々を覚えつつ、3月11日を迎えたいと思います。私たちの内で、3月11日の出来事を風化させることのないよう、むしろ思いを新たに迎える日としましょう。

3月11日を迎えるにあたって関東教区として礼拝等を行いませんが、来る3月10日や17日の主日礼拝において、被災された方々と被災地を覚え祈ってくださるようお願いいたします。

そのために、奥羽教区と東北教区で作成された祈り文を同封いたします。ご覧くださって、祈りを共にしていただければと思います(それらの祈り文は、「関東教区ホームページ」でも紹介しています)。

関東教区内では、伊勢崎教会、宇都宮教会、宇都宮上町教会、四條町教会清愛幼稚園、竜ヶ崎教会竜ヶ崎幼稚園が、教団の復興借入金の返済の途中にあります。宇都宮上町教会みふみ認定こども園が、復興工事に取り掛かることとなりました。どうかお祈りください。

2018年度にも大規模な自然災害が連続し、6月28日から7月8日にかけての豪雨による「西日本豪雨」や、9月6日の「胆振東部地震」は、各地に大きな被害をもたらしました。教区では代表を派遣し必要な支援の把握に努めるとともに、四国教区、西中国教区、東中国教区、北海教区に、お見舞い金を送りました。その際に、関東教区の被災支援活動のために、関東教区「北海道胆振東部地震」被災支援募金を呼びかけましたが、皆さまのご協力をいただき、2月28日時点で1,183,158円が献げられています。ありがとうございます。

また、教団の「熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募金」ですが、2019年1月22日時点で、目標額180,000,000円に対して総額143,077,492円が献げられ、その内関東教区からの献金額は14,056,436円です。

目標額には達していませんが、九州教区からは、被災教会の再建のためにあと4,100万円が必要とのことであり、これに対して教団に3,650万円が未送金分として用意されているため、実際には差額500万円が満たされれば被災教会の復興の見通しがたつとのことでした。

教団では、全国の教会であと500万円を献げ、被災教会の必要を満たしたいと考えているようです。

このため、関東教区として2,000万円をささげることが先の第67回教区総会で可決しましたが、「熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援募金」の取り組みは第68総会期をもって区切ってもいいのではないかと考えています。

そのためにも、被災教会の必要が満たされるために、諸教会・伝道所よりの支援募金へのより一層の献金にご協力ください。この第68総会期中に、教団に献金を送金いただきたいと思います。

どうかよろしく願いいたします。

3月6日(水)に「灰の水曜日」を迎え、レントへと導かれようとしています。

主の受難を思いつつ、主が人の苦難をその身におわれたことに、深く心を動かされたいと思います。そして、私たちも、苦難の中を歩む方々と共にありたいと願います。

神さまの導きとお守りが皆さまの上にありますようお祈りいたします。

日本基督教団関東教区 総会議長 東野尚志
災害対応支援委員会 統括 飯塚拓也